

自衛隊神奈川地方協力本部

地本の任務達成に貢献

～平成26年度自衛隊神奈川地方協力本部長感謝状贈呈式～



募集功労感謝状授与



本部長感謝の辞

自衛隊神奈川地方協力本部（本部長 高田 充一海佐）は、11月10日（月）、KKRポートヒル横浜において本部長感謝状贈呈式を実施し、永年に亘る自衛官募集、就職援護及び予備自衛官等雇用において、地域の募集基盤及び防衛基盤の拡充等、神奈川地本に多大なる貢献をされた功労者22名と8団体に対し、感謝状及び記念の盾を贈呈して感謝の意を表した。

広報センターイベント、最高の体験 レンジャー参加者 渡邊 和代

神奈川地本の広報センターイベントに当選し、レンジャー訓練を体験させて頂ける事になった。普段なら絶対出来ない貴重な機会。広報センターに集合した体験者はまず用意された迷彩服に着替えた。初めての迷彩服にテンションも上がり、女性の更衣室は一気に弾んだ空気がなった。マイクロパスでの移動も全員が迷彩服という事で気分は隊員。心配していた天気にも恵まれ暑い日の差しの中、武山駐屯地に到着するや否や私たちは教官達の前に整列。挨拶もそこそこ森田助教によるお手本。背筋の伸びたピツとしたやり取り、シューッとあつという間にリベリング（垂直降下）。初めて間近で見るレンジャー隊員の動きに皆、目を奪われた。また、よく使われる「体験だから」という甘くみていた空気が吹き飛んだ気がした。レンジャー塔に登った時は高さにビクビク。下から見ていた時はそれほど感じなかったが上から見ると足が竦みそうな高さだった。

最初に行った作業は、ロープでの「座席」作り。自分の身体に「座席結び」所謂登山等で使うハーネスを作った。結び方を教えて頂いた森田助教初め教官の皆さんが「必ず本結びにするように！」と言われていた。「縦結び」をしてしまつと解けてしまつからとの事。安全を確保する為にはしつこいという事はないのだなと思った。次は、安全環付きのカラビナをつけ、地面で練習。柱に繋がれたロープを下降ロープに見立て、ロープの掛け方、点検の順番、ブレイキの掛け方を学んだ。4、5名ずつに分かれて教えて頂いたが、参加者は、他のグループが教わっている間も自主的に復習し、必死に覚えようとしていた。

「メシラッパ」が鳴りお昼の時間。今回は「厚意で」「戦闘糧食Ⅱ型」通称「バックメシ」。湯煎されたパウチをランダムに取り芝生に座つての食事。メニューは数種類あり「サバのトマト煮」や「煮込みハンバーグ」「ひじき煮」等があった。皆で味見をしあったが、基本的にお米が多く、塩分が強く感じた。正直な所、美味しいと思っただけだったので隊員さん達の為にもう少し美味しい食事が用意出来たらいいのと思った。（味については回りの女性陣も同意見）また、「食あたりのカロリーが約100カロリーと知り、女性として恐怖も感じた。やはり身体を酷使される隊員さん向けのメニューなのだなと思った。

昼食後はいよいよ実際に懸垂降下をします。順番にレンジャー塔に上がり午前中習った事を頭の中でフル回転させながら挑んだ。ちよと私の前の2名を見る事が出来たが体験している男性の足が震えていて、一緒に順番を待っていた男性に「ドキドキするね」と言つた所、緊張の所為か苦笑いで返されたのが印象に残った。教官達が「女性の方が思い切りのいい」と言うのは本当なんだなあと思つた。

自分の番が来た時は「ついに体験出来る！」と嬉しくて叫びたくなる位。時間の限り反復練習。そしてその順番に行動。ロープを掛け、カラビナの安全環を確認し、手袋を付けた。一つ一つ大きな声に出して確認。その間も教官の目がしっかりと見ていてくれるのを感じた。大声で「レンジャー！」と叫び、足を踏み出した事は忘れられない。降下途中、下でロープを持ってきていた森田助教がロープにテンションを掛け、手を離せと言われた時も安心して手を放す事が出来た。下に降り立った時「上手かったですよ」と言つて下さつたのはとても嬉しかった。

恐怖心から中々踏み出せない参加者に歌を歌わせ気持ちを楽にさせていたのも面白かった。何人かに「声が小さい！」と言われていたのも、「恐怖は声を出す事で克服出来る。」のだなと思つた。総火演等では拝見しているがホバリング中のヘリから降下する隊員さん達の難易度を考えると日々の訓練の賜物なのだなと実感する事が出来た。多分：現役の自衛官さんからすれば考えられない位優しく教えて頂いたのだと感じた。教官の皆さんは、とてもユーモアのある方ばかりで本当に楽しく体験。高い位置からのリベリングが出来なかったのは残念だったが、機会があれば是非体験させて欲しい。

他の参加された方々とは初対面だったが、同じ迷彩服を着て、一緒に食事を取る事で連帯感も生まれた様に思えた。普段団体行動をとられている隊員さん達は、平日頃から行動を共にする事で有事の際にも統率のとれた行動が出来るのだなとわかつた。窮屈な事も多い生活だとは思いますが、それもいざという時の為の事。本当に頭が下がると同時に自衛隊をとて頼もしく思う。

教えて頂いた折原教官達、引率して頂いた神奈川地本の皆さんには本当にお世話になり感謝。この様な機会には是非是非山作つて頂いて沢山の人が「自衛隊」を体験して欲しい、理解して欲しいと思つた。今回募集が40歳までとなつて頂いていたが、若い方が多かつたなと思つた。自衛隊に入れる年齢を考えたら仕方ないかなとは思いますが、それ以外の方にも自衛隊を理解してもらつ、身近に感じてもらうというのとはとても大事な事だと思つた。厳しい事を言わせて頂く自衛隊好きの友人達も「この数年アラサー排除感が凄い」との声が多いです。正直「またか」と思わせられるイベントは少なくない。ですから、今回募集が40歳まででとても嬉しく思つたが実際の参加者は20代前半が多かつたので少し「ん？」と思つた。友人達にも「子供を自衛官に！」と言つて親は結構いる。その「親」世代になる人達にも広く門を開いたイベントをお願いしたい。



投稿者：下 左から2番目